



な ん で や ね ん



発行責任者 倉橋 忠

No. 1 3

金融恐慌

関東大震災の残したもの

プラスに考えると、関東大震災の経験は、都市の改造のきっかけとなったとも言える。復興の中で、政府は新しい都市計画を進め、東京や横浜は近代的な都市として生まれ変わった。^{よくねん}翌年の1924（大正13）年^{し が い ち け ん ち っ く ぶ つ ほう こう ぞ う き よ う ど き て い}に市街地建築物法の構造強度規定が改正され、^{ほう れ い じ し ん り よ く き て い た ん じ よ う}世界で初めての法令による地震力規定が誕生したことなどは、その例である。

しかし、やはりその損害は大きかった。^{そ ん が い}関東大震災(1923年)から生じた損害の大きさは、^{かん た ん}簡単には計算できないが、^{お く}およそ50億円ぐらいと^{み つ}見積もられている。

地震直前の1923(大正12)年8月現在の、^{に ほ ん ぎ ん こう け ん は つ こう だ か}日本銀行券発行高が、12億900万円であったことからすると、この金額が、^{そう ぞ う}どんなに大きなものであるか想像できるだろう。

^{だい そ ん が い}この大損害は、第一次世界大戦後の、1920(大正9)年以来の日本経済の不景気に、さらに深い^{いた で お}痛手を負わせた。

関東大震災前に発行されていた^{ふ わ た}手形が不渡りになるのを防ぐために政府は、震災の年の9月27日「震^{て が た わ り び き そ ん し つ ほ し しょう れ い}災手形割引損失補償令」を制定した。この命令の適用^{て き よ う}をうけた手形を^{し ん さい て が た}震災手形という。

震災手形のこげつきによって、^{き き}危機におちいった銀行^{たい}に対して、

政府は、日本銀行に命じ、震災手形を担保とする、銀行への資金貸付けを行わせた。そのため、日本銀行には、つぎつぎと手形がもちこまれた。

【手形の支払いとこげつき】

^{て が た}手形とは、約束(指定)された時に、指定された場所^{き ん ぎ ゃ かん}(金融機関)に持っていけば、現金に変えることができる証^{しょう けん}券のことである。

^{わり び き}手形の割引とは、^{し は ら い き じ つ}指定の支払期日以前に指定の金額より安く手形を買いとることである。

関東大震災の後の銀行には、まだ現金化されない手形がたくさんあったが、震災で手形支払人^{し は ら い に ん ふ り だ し に ん}(振出人)が支払い不可能になることが多かった。これを、手形のこげつき^{ふ わ た り}(不渡)という。

金融恐慌のはじまり

1927(昭和2)年3月11日、議会(貴族院)では、震災手形こげつき問題をしまつするための法律案^{し ん ぎ}が審議されていた。そのとき、^{わ か つ きれ い じ ろ う}若槻礼次郎内閣の^{か た お か な お は る ぞ う しょう}片岡直温蔵相は、1億円^{たい わ ん}のこげつきをかかえた台湾銀行をはじめ、銀行の経営がピンチになっていることを明

らかにした。この発言は、^{ひみつかい}秘密会で行われたものであったが、たちまち新聞にもれてしまった。さらに、3月14日には、衆議院予算総会で、蔵相が^{とうきようわたなべぎんこう}東京渡辺銀行の休業予定を話した。このため、^{よきんしや}預金者の不安は大きくなり、^{よきん}預金をおろそうとする人々が銀行に^{さつとう}殺到し、長い行列ができた(^と取り付けさわぎ)。しかし、金庫に^{よきんしや}預金者に^{しはら}支払うだけの金のない銀行もあった。

3月15日から3月22日にかけて、東京を中心に、^{しょうきぼ}小規模の9つの銀行が休業に追いこまれた。中には、12万8000円の預金すらも支払いきれない銀行もあったという。

4月18日には、一流の銀行の台湾銀行が休業した。

4月21日には、^{くないしょう}宮内省(つまり天皇)の金を預かる十五銀行も休業した。

こうして、3月15日から4月23日までのあいだに、日本全国で36の銀行が^{とびら}扉をしめてしまった。もちろん、扉をしめない一流銀行にも、^{よきんしや}預金者がお



東京中野銀行に預金の払い戻しを求めて行列する人々と、整理にあたる警察官。1927年

しかけ、^{さつき}殺気だった行列ができた。日本銀行からそれらの銀行には、^{しへい}紙幣がぞくぞくと送られたが、人々の間には、^{なかみ}あの中身は^{ふるはがき}古葉書で、人々の心をしずめるためのトリックだといううわさまで流れた。4月17日、追いつめられた^{わかつきないかく}若槻内閣は^{そうじしよく}総辞職した。

4月20日、^{せいゆうかいそうさい}政友会総裁で^{たいえき}退役陸軍大將である^{ぎいち}田中義一が、^{しゆしやう}首相(内閣総理大臣)とする内閣ができた。^{おおくらだいじん}大蔵大臣には、^{これきよ}首相を経験している^{しゆうにん}高橋是清が就任した。^{てつや}徹夜の^{かくぎ}閣議(内閣で行う会議のこと)を開いた田中内閣は、とりあえず、4月22・23日の^{りやうじつ}両日、全国の銀行をいっせいに休業させるとともに、4月22日から3週間のモラトリアム(^{よきん}預金引出しに対する支払い義務をまぬがれさせること)を実施した。

一方、日本銀行は、政府の^{しきん}資金によって、ふつうの銀行にたいして5億円、台湾銀行には2億円の^{えんじよ}援助をし、また、合計21億9000万円の^{ひじようかしだ}非常貸出しを行って、全国の銀行を支援した。このため、^{さつ}お札がたりなくなり、表だけ印刷して裏が白という^{しへい}異例の200円紙幣まで発行された。

4月25日(月曜日)に、銀行の業務が再開された。

国民の^{おさ}納めた^{たかく}多額の^{ぜいきん}税金を使って、ようやく金融恐慌をきりぬけることができた。

(説明文は、家永三郎編『日本の歴史6』ほるぷ出版 1984年p. 123～p. 125を参考にした)